

(中間評価)

被害量算定による総合的影響評価手法の開発に関する研究

(研究期間：平成13年～17年)

任期付研究員：伊坪 徳宏（独立行政法人産業技術総合研究所）

総 評（研究を継続するべき：非常に優れた成果が期待できる）

本研究は、被害量の算定に基づくライフサイクル影響評価手法の開発を行うものであり、特にエンドポイントの被害量について評価する手法体系の構築を最重要課題とし、環境負荷とエンドポイントを定量的に関連づけるダメージ関数の開発を重点的に行うものである。

ライフサイクルアセスメントにおける我が国独自の手法の根拠を与える有用な研究であり、各要素に関する深い研究ではなく、多側面の環境影響の比較に科学的な根拠を与えるものであり、新しい評価手法を実用段階に到達させるために有用な研究であると判断できる。WHOの指標を導入するなど、研究の基礎的な部分に信頼性があり、一流のReview誌に紹介され一定の成果が認められるなど、これまでの研究は順調に進捗しているものと評価できる。

また、非常に挑戦的な研究に取り組んでおり、今後の展開にもよるがその価値は概ね高いと評価できる。波及効果については、LCAの発展に大きく貢献すると考えられ、環境効率の評価や環境会計への応用など、科学的・技術的な面のみならず社会的にも十分期待できる。

情報発信については、学術発表に加えて、複数回の一般への発表も行われるなど社会への啓発も積極的に行われており非常に評価できる。また、独創性のある研究が展開されており、十分自立した研究が行われているものと評価できる。

一方、所属機関においては積極的に任期制が導入されており、新規性に富んだ本研究の遂行が新たな研究分野の開拓につながることも期待され、任期制の定着への効果は概ねあると評価できる。また、任期付研究員に対する所属機関の支援については、これまでの研究の進捗状況から判断して、概ね支援が行われていると評価できる。

以上により、本研究を総合的に判断すると、非常に優れた成果が期待できる研究であると評価できる。
＜総合評価：a＞

係数の不確実性に係る検討を行うなど、成果創出に向けた本研究の更なる進展を期待しつつ、今後とも研究を継続するべきである。
＜今後の進め方：a＞

評価結果

総合評価	今後の進め方	目標達成度	研究成果				研究計画	研究者の自立性	任期制の定着への効果	所属機関の支援
			科学的・技術的価値	科学的・技術的波及効果	社会的・経済的波及効果	情報発信				
a	a	a	b	a	a	a	a	a	b	b